

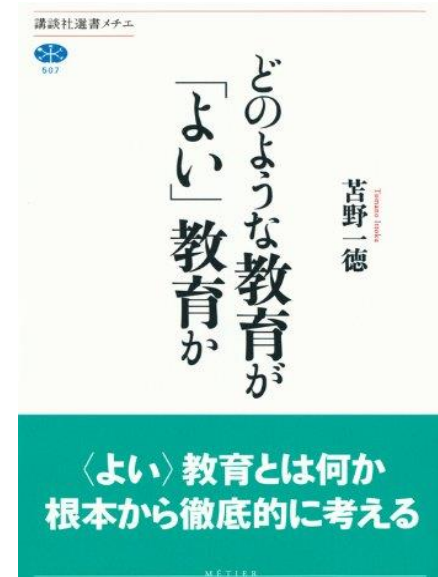
議論の前提(の前提)の共有

公教育の本質

(そもそも公教育は何のために存在するか?)

その「正当性」の原理

(どのような教育政策であれば「よい」と言えるか?)



- 最上位目標の合意(工藤委員)
- 何を学習成果として目指しているのかをしっかりと握らないと、トレンドに流される学習の本質を見失ったままの上物だけが取り替わった学習プロセスになる(中原委員)
- 「教育現場に企業論理を持ち込むな」といった批判が寄せられる可能性もある(論点整理)

公教育の本質

- 各人の〈自由〉および社会における〈自由の相互承認〉の実質化
- 公教育は、すべての子どもが、お互いに対等な存在であるという〈自由の相互承認〉の感度を育むことを土台に、〈自由〉に生きられる(生きたいように生きられる)力を育むために存在している

その「正当性」の原理

- 〈一般福祉〉の原理
- 教育政策は、ある一部の子ども(人)の自由(=福祉、よき生)のみを実質化するのではなく、すべての子ども(人)の自由(=福祉、よき生)を実質化する時にのみ「正当」と言える

現代学校教育における問題の本質

みんなで同じことを、同じペースで、同じようなやり方で、同質性の高い学年学級制の中で、できあいの問いと答えを勉強する、150年間ほとんど変わってこなかったベルトコンベヤー型のシステム

- 落ちこぼれ、吹きこぼれ
- 不登校、同調圧力、いじめ、管理・統率
- 学びの意味を見出せない、学びからの逃走

学びの構造転換へ

- 「学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合」へ
 - 学びの自律化・個別最適化
 - 学びの探究化・STEAM化
- 個別最適化を孤立化と同義には決してしない
 - 「ゆるやかな協同性」に支えられた「個の学び」の尊重
 - 必要に応じて、多様な人の力を借りられる、自分も誰かの力になれる **高信頼性組織**

教育の力
苦野一徳

すべての
子どもに
〈生きる力〉を



「学校」をつくり直す
苦野一徳
Tomotaka Inoue



公教育の構造転換へ

- 自分たちの学校は自分たちで作る(市民社会の土台としての学校)

→校則ルールメイキングプロジェクト,etc.

- 同質性の高い学校・学級を、もっと「多様性がごちゃまぜのラーニングセンター」へ

→社会の中の校舎、学校の複合施設化、旅する高校・中学, etc.

教育の力
苦野一徳

すべての
子どもに
〈生きる力〉を



「学校」をつくり直す
苦野一徳
Tomonori Ikuno



改めて、何のための教育イノベーションか？

公教育の本質

→各人の〈自由〉および社会における〈自由の相互承認〉の実質化

その「正当性」の原理

→〈一般福祉〉の原理